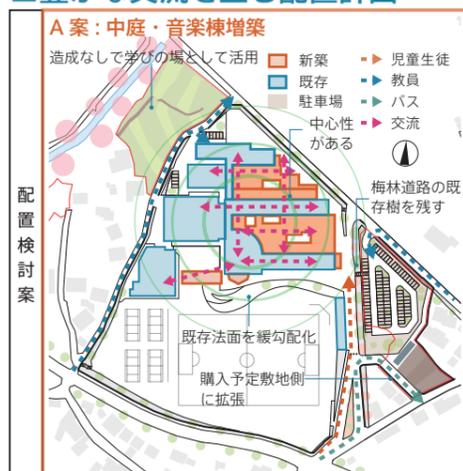




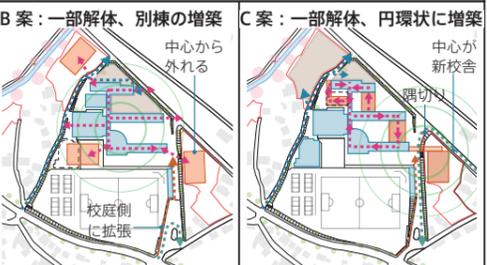
## 豊かな交流を生む配置計画

提案テーマ②各種条件等への建築的アプローチ



1階を平面的に拡張したA案が、最もコンパクトな案でありながら、広がりをもって交流機会を最大に生み出す案で、他案と比較してメリットも多い。

- 評価
- ①コミュニケーション
  - ②外部からの動線
  - ③既存施設との関係
  - ④施工性
  - ⑤教室貸出の管理
  - ⑥児童生徒の管理



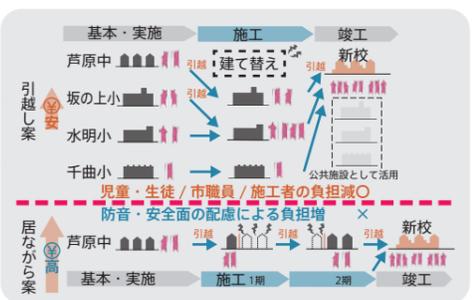
①	面が大きいため、水平方向で関係が作りやすい。	距離が遠く、学年間の交流が難し。	リニアな形状に対して改善。
②	歩者と自動車の動線が交差しないため安全に登校可能。	動線は交差しないが、校庭縮小。	バスと歩行者動線が交差。
③	既存棟を最大限にいかしたコンパクトな計画。	中心からの距離が遠くなる。	東に広がり新棟が中心になる。
④	山留めは既存で代替し不要。低層のため直接基礎で計画可。	山留め必要。高層で杭が必要。	山留め必要。高層で杭が必要。
⑤	平面が大きいため、セキュリティラインの構築により容易。	別棟で分かれるため容易。	教室が連続するため難し。
⑥	上階で学年のまとまりが明確に分かれるため容易。	別棟で分かれるため容易。	学年のまとまりが作りづらい。

## 既存環境を生かした事業計画

提案テーマ③構造・設備と事業全体のコントロール

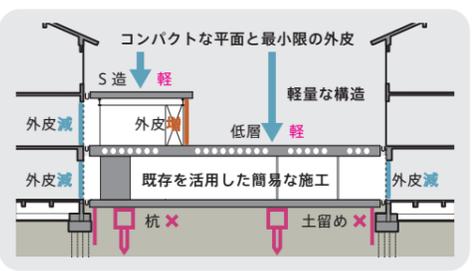
### 施工中の仮設費用を最小化

既存校舎の利用状況から千曲小はそのまま、坂の上小の児童は水明小に移動し、空いた坂の上小に必要最低限の改修を行いながら、芦原中の生徒が移動します。生徒がいない敷地をフルに使い効率的に工事をすることで、工期短縮、コスト削減を実現します。工事期間中も各所で安全で落ち着いた環境での学習が可能です。



### 建築計画によるコストコントロール

増築床面積・外皮面積を最小限にするなど、建築計画でコスト減を見込みます。施工は既存校舎の間に低層の増築をするため、山留めが不要かつ、杭が不要な直接基礎が可能で土工事も減りコストを抑えます。既存棟は断熱改修等の対応を行い、長寿命化・LCCの低減を図ります。



## みんなでつくる小諸の学校

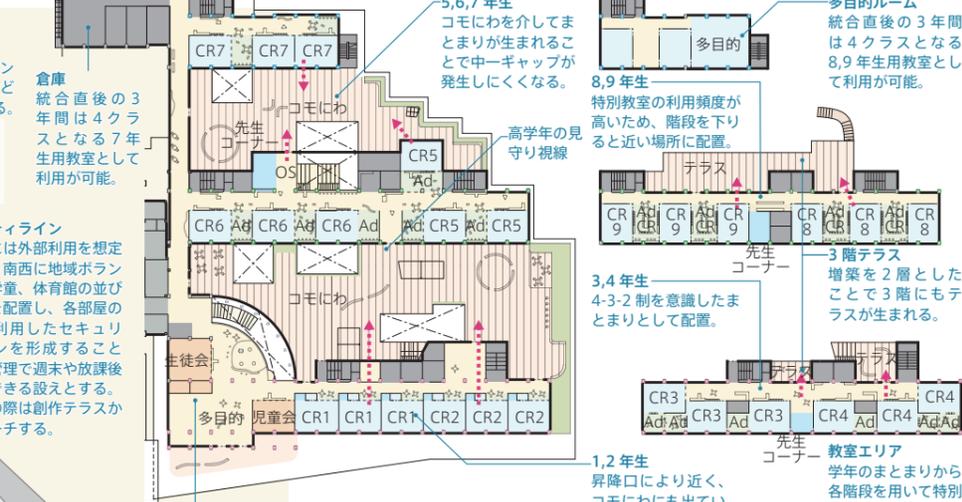
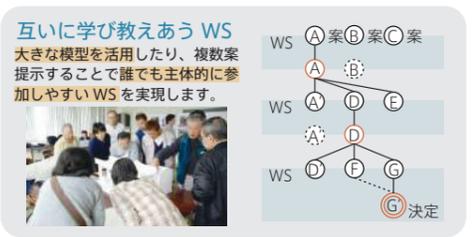
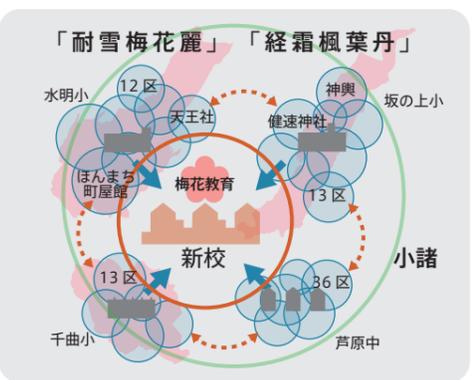
提案テーマ④事業実施に係るマネジメント

### 地域を育て、地域を繋ぐ学校

新校での9年間はより広域の児童生徒と保護者、教師間のつながりを生み、それぞれの学区内の自治区にすでに潜在している、多世代にわたる強固な地元のネットワーク同士を繋ぐ役割を果たします。地域の人的・物的な資源と連携を取り、WS段階から地域を巻き込むことで、新校が地域の学校としてコミュニティの結節点となることを目指します。

### 地域共創ワークショップ

カリキュラムや空間の使い方など教育や建築に直接的なWSの他に「地域の中の学校の在り方」を議論する地域共創WSを2か月ごとに開催します。都度テーマを決め、広範な視野で学校を捉えます。WSは多くの参加者を募り、計画のプロセスを公開して地域と共有します。



## コンパクトな増築によって生まれた余白を最大限に活用し、敷地全体が学びの場となる外構計画

北西の敷地は稲作体験を行う学びの棚田、北東の敷地は既存樹を最大限に残した駐車場と学びの畑、バスラウンジを整備します。身近な農業体験が行える場所が地域のボランティアの方々との交流の場となります。東側には増築しないため、梅林道路は既存のまま保存し、南側に伸ばすように拡張して歩行者専用の設えとします。校舎と校庭の間の急な段差は工事残土を利用した緩やかな斜面で憩いの場として整備します。

## 学ぶ空間をサポートする構造・環境・設備

提案テーマ③構造・設備と事業全体のコントロール

